

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】平成 20 年 5 月 8 日 (2008.5.8)

【公開番号】特開 2005-294830 (P2005-294830A)
 【公開日】平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-041
 【出願番号】特願 2005-91020 (P2005-91020)
 【国際特許分類】

H 0 1 F 7/16 (2006.01)
 F 0 1 L 9/04 (2006.01)
 F 1 6 K 31/06 (2006.01)
 H 0 1 F 7/06 (2006.01)

【F I】

H 0 1 F 7/16 A
 F 0 1 L 9/04 Z
 F 1 6 K 31/06 3 8 5 A
 H 0 1 F 7/06 F
 H 0 1 F 7/16 E
 H 0 1 F 7/16 R

【手続補正書】
 【提出日】平成 20 年 3 月 18 日 (2008.3.18)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 4 9】

アーマチャーアッセンブリ 6 6 の磁石 6 8 a ~ 6 8 c は、隣接する磁石が反対の径方向の磁化を有するように構成されている。換言すれば、最上及び最下の磁石、即ち磁石 6 8 a 及び 6 8 c が、第 1 の径方向極性（例えば N - S）を有し、その一方で、アーマチャーアッセンブリの中央部に配置された磁石、即ち磁石 6 8 b は、反対の径方向極性（例えば S - N）を有する。この設備では、アクチュエータ 6 0 は、オーバーハング設計を使用し、磁石 6 8 a ~ 6 8 c の軸方向高さは、対応するコイル 6 4 a ~ 6 4 c の軸方向高さよりも大きい。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 0
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 0】

ここで図 4 B を参照すると、ステーターアッセンブリ 6 2 は、3 つのコイル 6 4 a ~ 6 4 c を備えることに加えて、中央極部 7 0 と、一連の嵌合背鉄部材 7 2 と、を更に備える。中央極部 7 0 は、高い透磁率を有する材料（例えば S M C）から形成され、コイルにより発生される磁場のための磁気戻り経路として機能する。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 3
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 3 】

図 4 E 乃至図 4 F に示されるように、アーマチャーアッセンブリ 6 6 は、3つの径方向に磁化された磁石 6 8 a ~ 6 8 c の間に配置された2つのスペーサー 8 2 a ~ 8 2 b を備えている。アーマチャーアッセンブリは、バルブステム 8 8 をアーマチャーアッセンブリの残りの部分に機械的に接続するボールジョイントアッセンブリ 8 6 を更に備える。孔 8 9 a ~ 8 9 d に配置された一連のねじは、ボールジョイントアッセンブリ 8 6 をカプラー 9 0 に固定する。1つ以上のクリップ、例えばクリップ 9 2 は、磁石 6 8 a ~ 6 8 c 及びスペーサー 8 2 a ~ 8 2 b をカプラー 9 0 に機械的に固定する。磁石 6 8 a ~ 6 8 c 及びスペーサー 8 2 a ~ 8 2 b は、支配的な渦電流経路を遮断するため、それらの軸方向にスリット 8 3 a、8 3 b を形成している。

【手続補正 4】

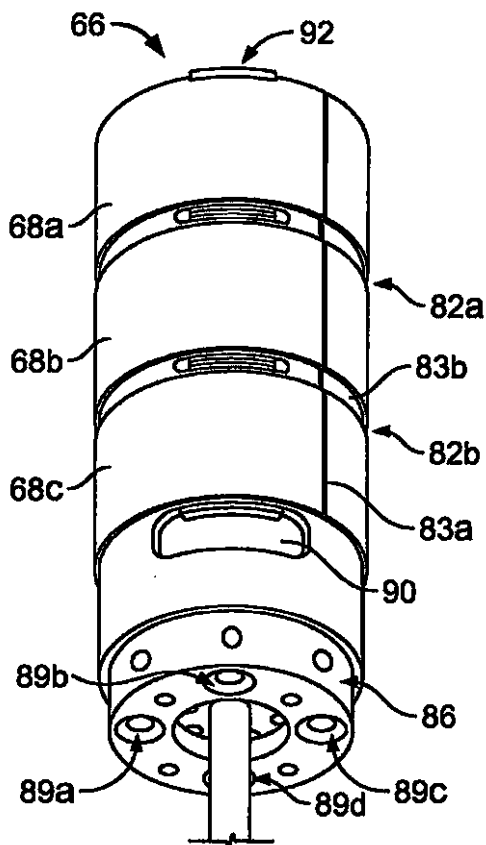
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4 E

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 4 E】



【手続補正 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4 F

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 4 F】

